

J-BIM 施工図CAD

基本操作編

目次

1 プログラムの起動と画面 _____ 3

1-1	プログラムの起動方法	3
1-2	画面まわりの機能	5
1-3	図面の開き方	6
1-4	物件の変更	7
	「物件選択」ダイアログの機能	7
	物件情報の変更	8
	物件データのコピー	8
	物件データの削除	9
	物件データのエクスポート	10
	物件データのインポート	11

2 データの操作 _____ 12

2-1	画面の拡大・縮小	12
	両ボタンドラッグによる画面操作	12
	その他の操作方法	13
2-2	データの選択と編集	14
	データの選択方法	14
	バックモード	15
	データの削除	15
	トラッカー	16
	レイヤ	17
	コマンドコレクション	18
2-3	データの入力	19
	データの入力方法	19
	戻る・キャンセル	21
	元に戻す・やり直し	21
2-4	ピックモード	22
	ピックモードの切り替え	22
	ピック対象の切り替え	23
2-5	便利な機能	24
	スポイト	24
	線間計測	24
	数値入力/電卓	24

3 バックアップ・リストア ____ 25

3-1	物件データのバックアップとリストア	25
3-2	マスタのバックアップとリストア	26

1 プログラムの起動と画面

プログラムの起動方法、画面まわりの機能について解説します。

1-1 プログラムの起動方法

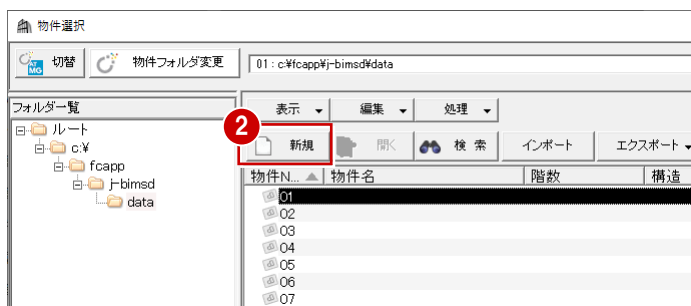
- 1 プログラムを起動するには、デスクトップ上の「J-BIM 施工図 CAD」のアイコンをダブルクリックします。



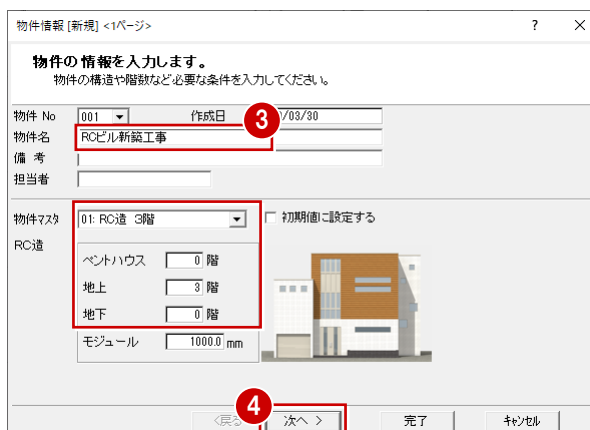
Windows OS が 64bit の場合は、デスクトップにアイコンが 2 つ作成されます。「J-BIM 施工図 CAD (64)」をお使いください。



- 2 「物件選択」ダイアログの「新規」をクリックします。
「物件情報 [新規]」ダイアログの 1 ページ目が開きます。

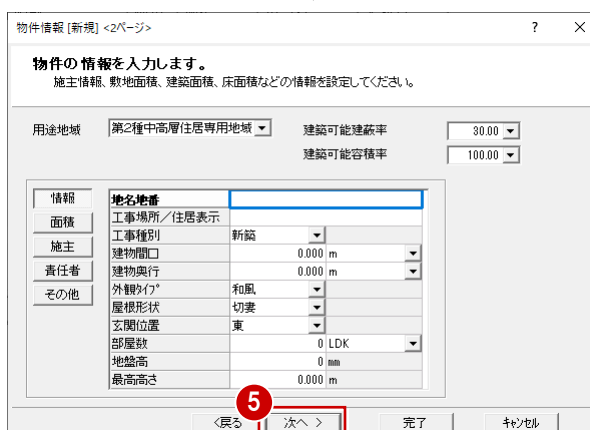


- 3 物件名を入力します。
- 4 物件マスタ、階数を確認して、「次へ」をクリックします。
2 ページ目が開きます。



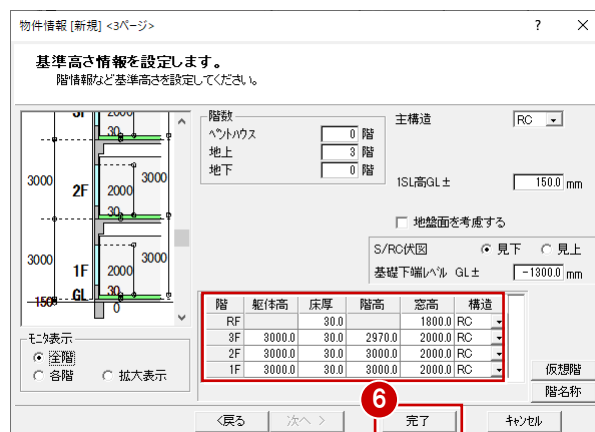
※ 2 ページ目は意匠図に関する情報のため、特に入力する必要はありません。

- 5 そのまま「次へ」をクリックします。
3 ページ目が開きます。



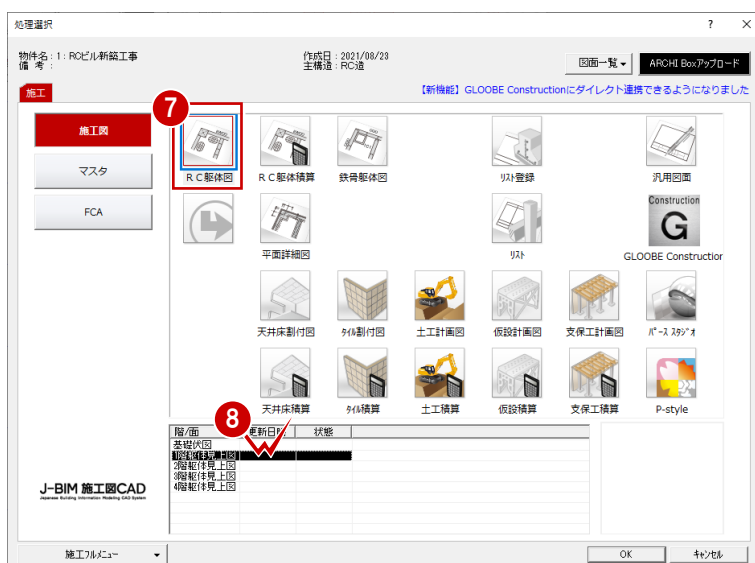
1 プログラムの起動と画面

- ⑥ 各階の基準高さを確認して、「完了」をクリックします。
「処理選択」ダイアログが開きます。

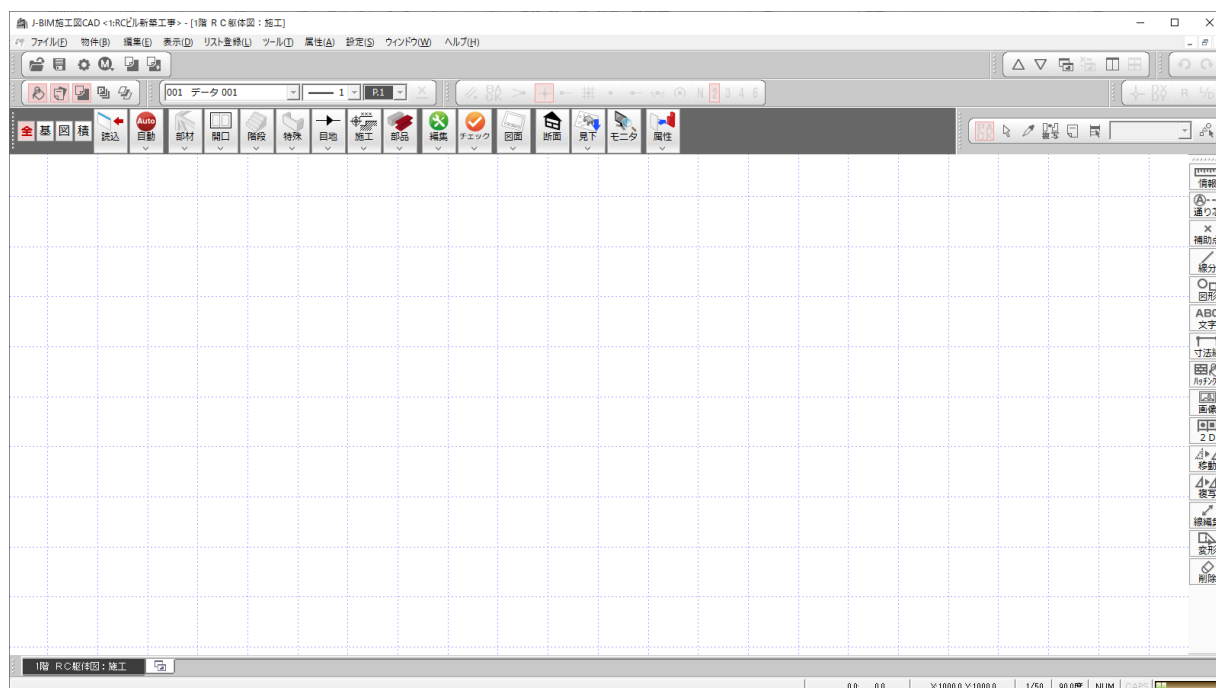


- ⑦ プログラム一覧で「RC 躯体図」をクリックします。

※ アイコンに  マークが表示されているプログラムは使用できません（現在ご購入いただいているプログラムです）。

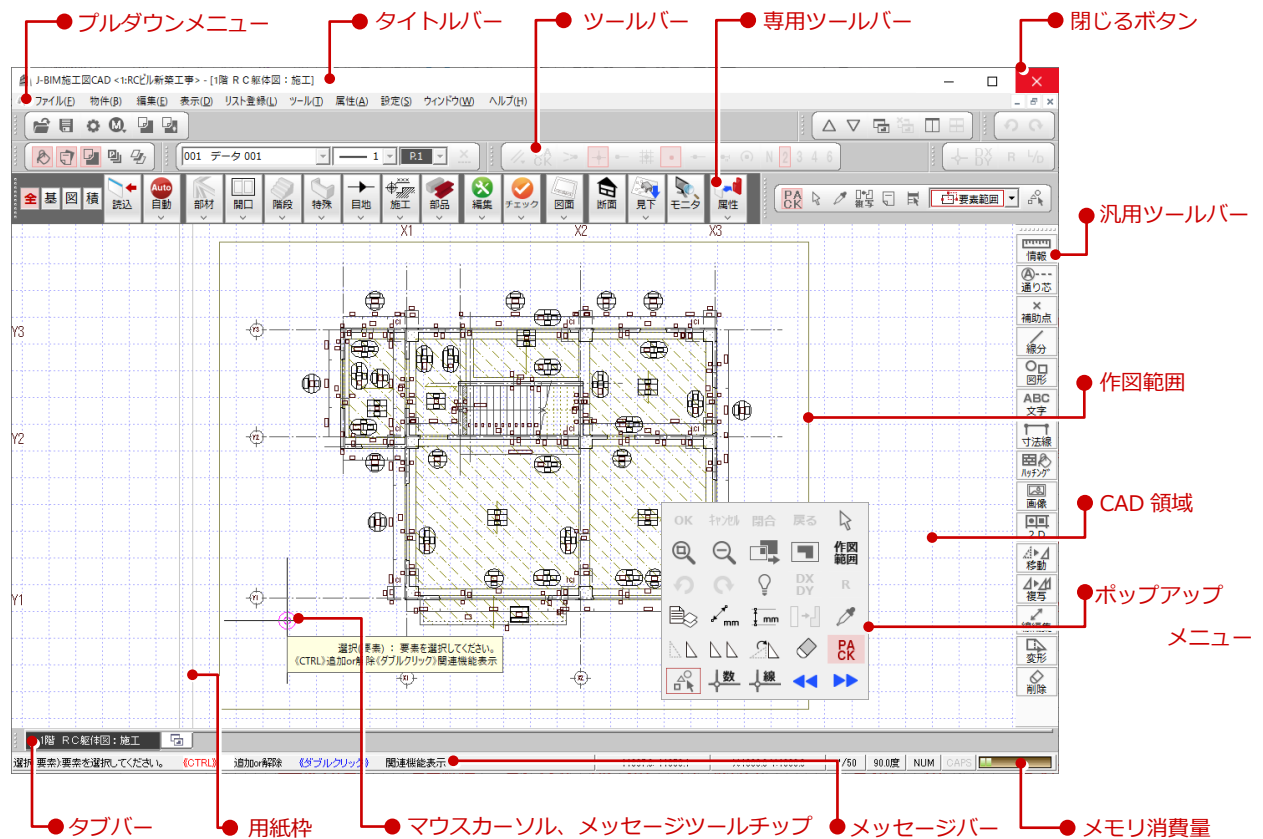


- ⑧ 図面一覧で「1 階躯体見上図」をダブルクリックします。
「1 階 RC 躯体図：施工」ウィンドウが開きます。



1-2 画面まわりの機能

J-BIM 施工図 CAD の画面まわりは、以下のような機能で構成されています。

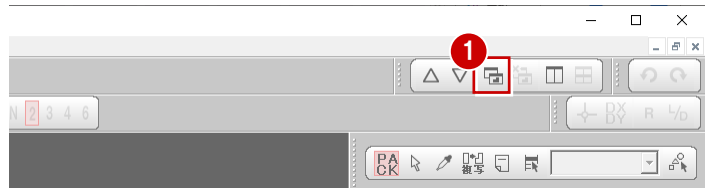


画面まわりの機能	
タイトルバー	作業中の物件および図面（ウィンドウ）の名前が表示されます。
プルダウンメニュー	目的別のメニューからコマンドを選択して処理を行います。
ツールバー	複数のボタン（アイコン）が機能別にまとめられています。
専用ツールバー	図面専用の機能がメニュー別にまとめられています。
閉じるボタン	J-BIM 施工図 CAD を終了します。
汎用ツールバー	汎用データ（線・文字・寸法・ハッチングなど）の入力機能や移動・複写・変形などの編集機能がメニュー別にまとめられています。
作図範囲	画面を全体表示に切り替えたときの表示範囲です。作業に合わせて自由に範囲を設定できます。
CAD 領域	図面データを編集する場所です。背景の色は変更可能です。
メモリ消費量	メモリの使用量を表示します。メモリの消費量が多くなるにつれてバーの色が変わり、警告メッセージが表示されます。
ポップアップメニュー	CAD 領域で右クリックすると開くメニューです。入力中によく使われる機能や汎用ツールバーの機能がまとめられています。 ※「設定」メニューの「基本設定」の「ポップアップ」でメニューに好きな機能を割り当てることもできます。
マウスカースル、メッセージツールチップ	マウスポインタを CAD 領域へ移動すると、十字の形をしたカーソルが表示されます。 CAD 領域でマウスポインタを止めると、次の操作に関する説明が表示されます。
用紙枠	現在の図面を特定の用紙または図枠で印刷した場合の、収まり具合を画面上で確認できます。 ※ 用紙サイズまたは図枠は、「設定」メニューの「用紙枠」で変更できます。
メッセージバー	選択した機能の名称や次の操作に関する説明、マウスカースルの位置（座標）、グリッドの間隔、入力図面のスケール、ドラフタの条件、NumLock 等のキーの状態が表示されます。
タブバー	开着いる図面（ウィンドウ）の名称がタブに表示されます。 タブをクリックしてウィンドウを切り替えたり、閉じることができます。

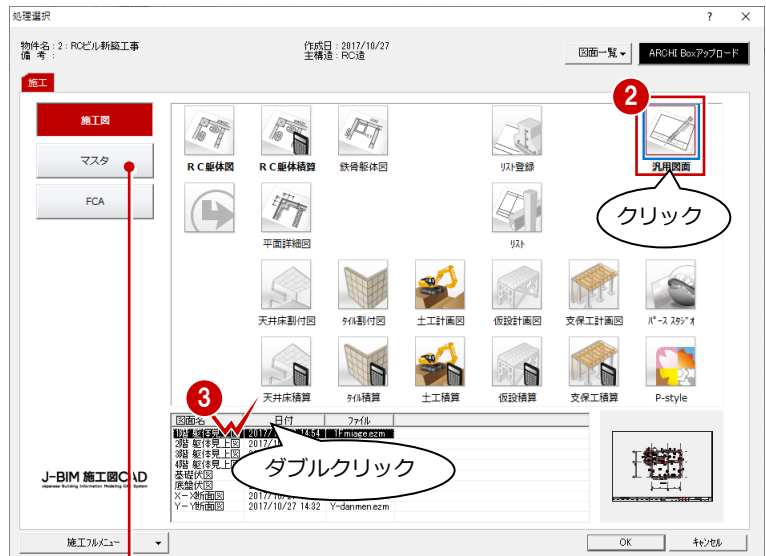
1-3 図面の開き方

作業中に別の図面を開くには、次のように操作します。

① 「他の処理図面を開く」をクリックします。



② 「処理選択」ダイアログでプログラムアイコンをクリックします。



③ 図面一覧で開きたい図面をダブルクリックします。

同時に開くことができる図面（ウィンドウ）は、100面までです。

マスタを開く場合は、このボタンをクリックして「プログラム一覧」の内容を切り替えます。

関連するプログラムを開く

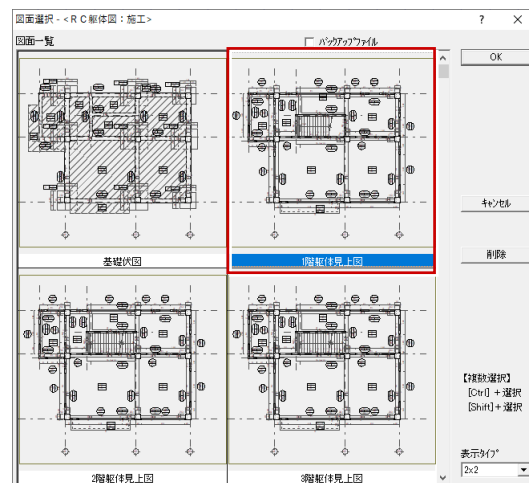
「ウィンドウ」メニューにも、関連するプログラムを開くコマンドが用意されています。



【RC 躯体図の場合】

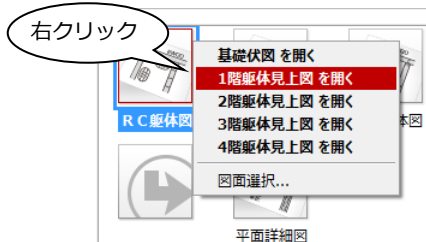
図面選択ダイアログ

プログラム一覧でプログラムアイコンをダブルクリックした場合は、「図面選択」ダイアログが開きます。「図面一覧」で開く図面を選択します。



右クリックで図面選択

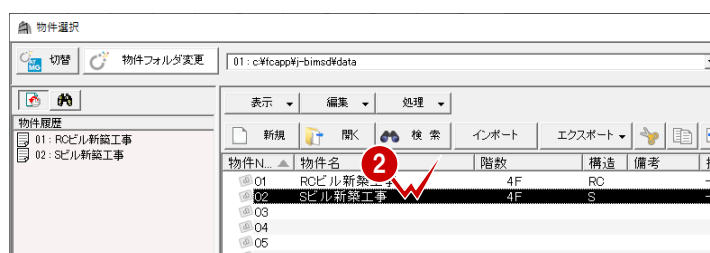
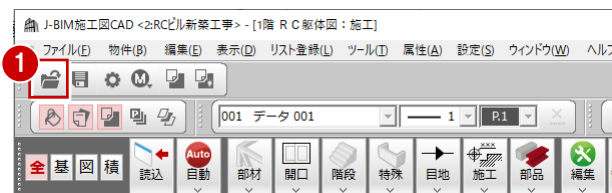
プログラム一覧のアイコン上で右クリックして、開く図面を選択することもできます。



1-4 物件の変更

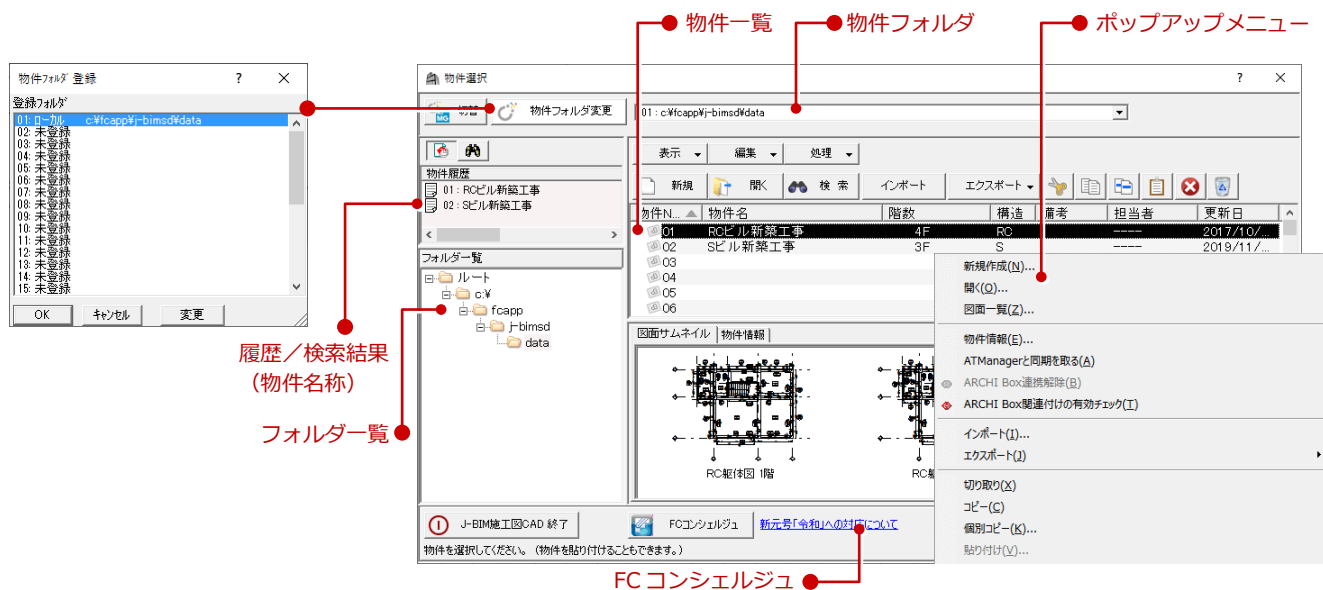
作業中の物件を閉じて別の物件を開くには、次のように操作します。

- ① 「物件変更」をクリックします。
- ② 一覧で開きたい物件をダブルクリックします。



「物件選択」ダイアログの機能

「物件選択」ダイアログの各部の機能を紹介します。



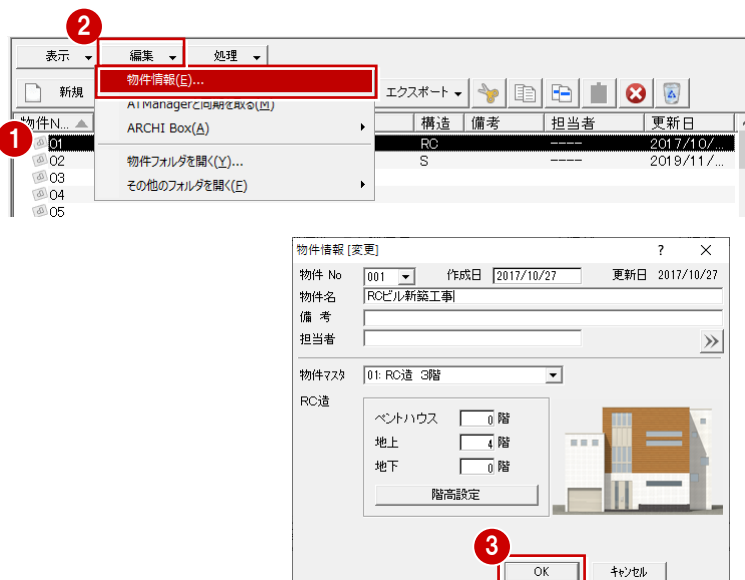
「物件選択」ダイアログの機能

物件フォルダ	物件フォルダの追加は「物件フォルダ変更」で表示される「物件フォルダ登録」ダイアログで行います。物件フォルダを切り替えるには、「▼」をクリックして表示されるリストから選択します。
物件一覧	物件を一覧表示します。上部の項目（物件 No など）をクリックして物件の並べ替えが可能です。
ポップアップメニュー	物件一覧で右クリックすると、物件の操作に関する機能をまとめたポップアップメニューが表示されます。
フォルダー一覧	登録されている物件フォルダをツリー表示します。フォルダをクリックして物件フォルダを切り替えることができます。
履歴／検索結果 (物件名称)	物件の履歴や検索結果を表示します。物件名をダブルクリックして物件を開くことができます。
FC コンシェルジュ	FC コンシェルジュに案内されている最新のメッセージが表示されます。「FC コンシェルジュ」をクリックすると、インストールされている FC コンシェルジュが開きます。

物件情報の変更

物件名や物件 No などの変更ができます。

- ① 物件を選びます。
- ② 「編集▼」メニューから「物件情報」を選びます。
- ③ 物件名や物件 No などの内容を変更して「OK」をクリックします。

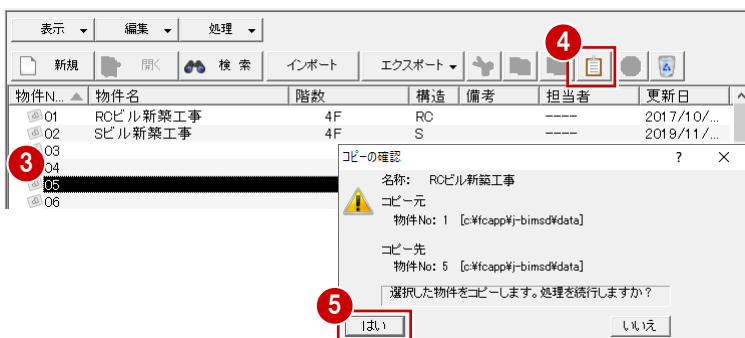


物件データのコピー

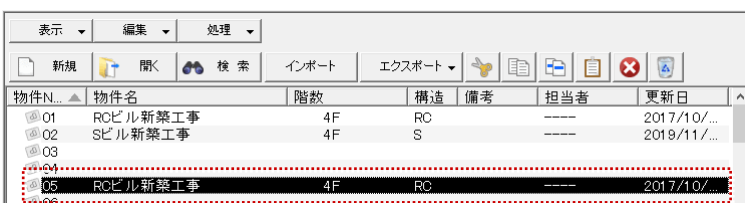
- ① 物件を選びます。
 - ② 「コピー」をクリックします。
- ※ Ctrl キーを押しながら物件をクリックすることで複数物件の選択も可能です。



- ③ 空き物件を選びます。
- ④ 「貼付」をクリックします。
- ⑤ 確認画面で「はい」をクリックします。

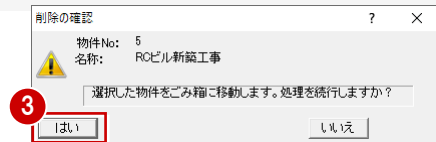


物件データを移動するには、「切り取り」「貼付」を使用します。



物件データの削除

- 1 物件を選びます。
- 2 「削除」をクリックします。
- 3 確認画面で「はい」をクリックします。



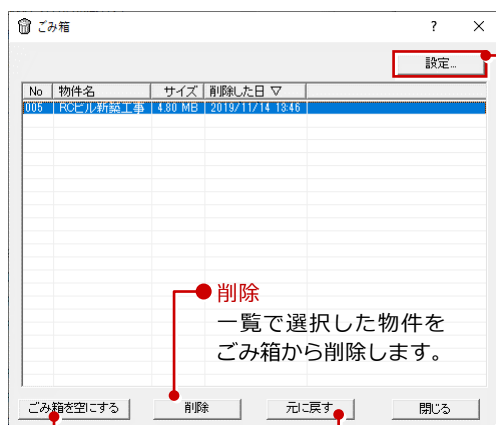
ごみ箱の設定

削除した物件データはごみ箱に移動します。ごみ箱に移動した物件は「物件選択」ダイアログの「ごみ箱」で確認できます。



ごみ箱を使用する

削除した物件をごみ箱に移動せず、そのまま削除してしまう場合は、このチェックをはずします。



削除

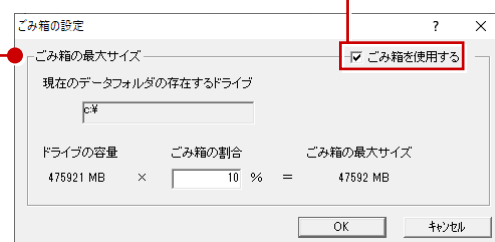
一覧で選択した物件をごみ箱から削除します。

ごみ箱を空にする

ごみ箱にある全物件を削除します。

元に戻す

一覧で選択した物件をごみ箱から現在の物件フォルダへ戻します。



物件データのエクスポート

物件データを受け渡す場合は、物件圧縮ファイル（fcbz）という形式にエクスポートします。

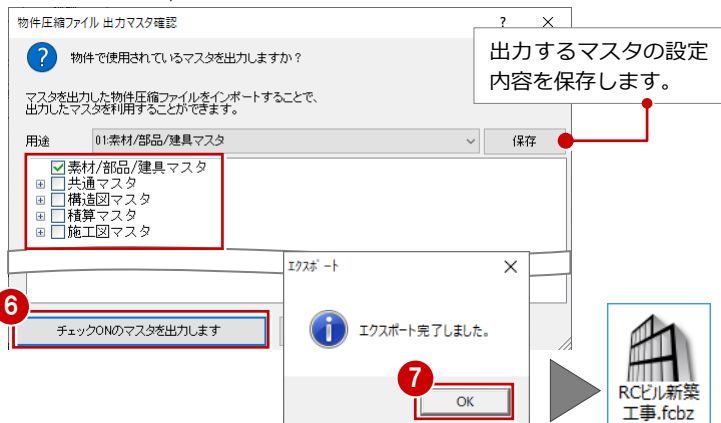
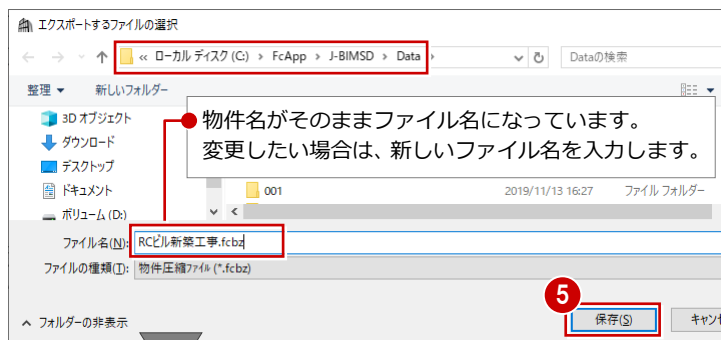
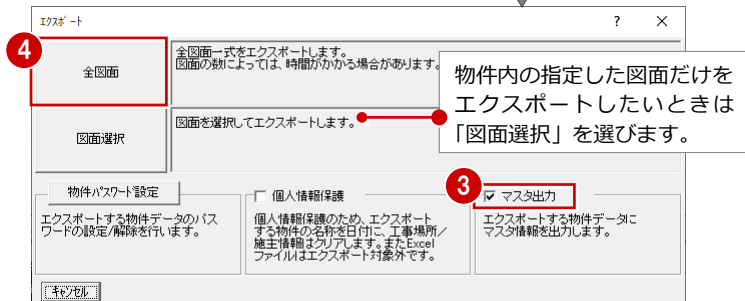
- ① 物件を選びます。
- ② 「エクスポート▼」メニューから「物件圧縮ファイル（fcbz）」を選びます。
- ③ 素材などのマスタを出力するときは、「エクスポート」ダイアログの「マスタ出力」をONにします。
- ④ 「全図面」をクリックします。

※「図面選択」を選択した場合は、「図面一覧」ダイアログでエクスポートする図面を選択します。

- ⑤ 「エクスポートするファイルの選択」ダイアログで、ファイルの保存場所とファイル名を設定して、「保存」をクリックします。

- ⑥ 「物件圧縮ファイル 出力マスタ確認」ダイアログで、出力するマスタをONにして、「チェックONのマスタを出力します」をクリックします。
エクスポートが開始されます。

- ⑦ 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



マスタデータの出力について

マスタデータも出力するとファイルサイズは大きくなりますが、マスタも同時に出力することをお勧めします。ファイルを受け取る側に同じマスタが存在しない場合、受け取り側でプロパティの変更やパースモニタの再作成を行うとエラーが表示されてしまうためです。なお、マスタ込みのファイルをインポートする際は、取り込むマスタを選択できます。

複数物件を一度にエクスポートするには

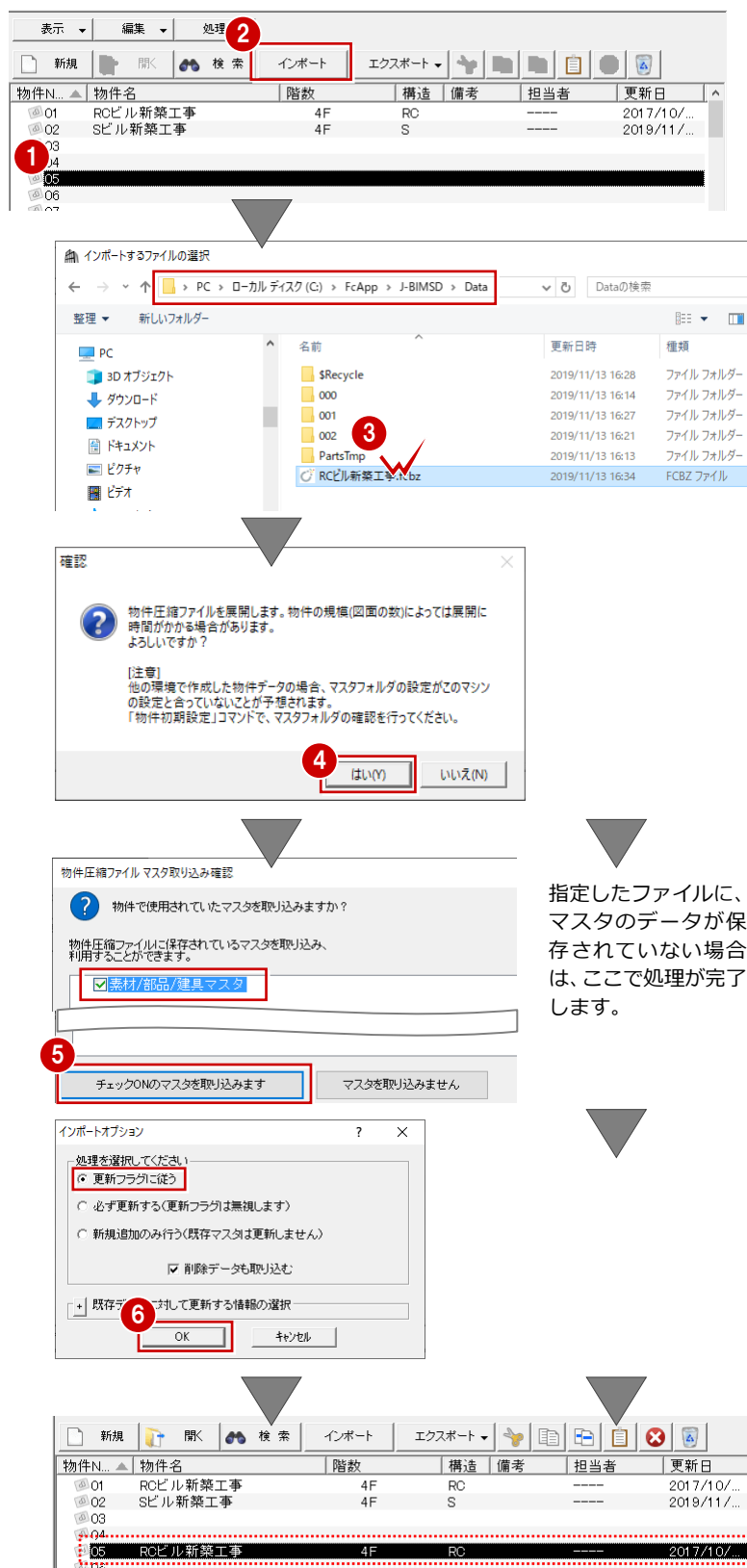
物件を複数選択してから、「エクスポート」の「物件圧縮ファイル（fcbz）」を選びます。ただし、このとき、物件の全図面がエクスポート対象となります。

物件データのインポート

物件圧縮ファイル（fcbz）を取り込むには、次のように操作します。

- ① 空き物件を選びます。
- ② 「インポート」をクリックします。
- ③ 「インポートするファイルの選択」ダイアログで、ファイルの保存場所を設定して、物件圧縮ファイル（*.fcbz）をダブルクリックします。
- ④ 確認画面で「はい」をクリックします。
インポート処理が始まります。
- ⑤ 指定したファイルにマスタデータが保存されている場合は、「物件圧縮ファイル マスタ取り込み確認」ダイアログが表示されます。
取り込むマスタをONにして、「チェックONのマスタを取り込みます」をクリックします。
- ⑥ 続けて、「インポートオプション」ダイアログが開くので、「更新フラグに従う」が選択されていることを確認して、「OK」をクリックします。
物件データが登録されます。

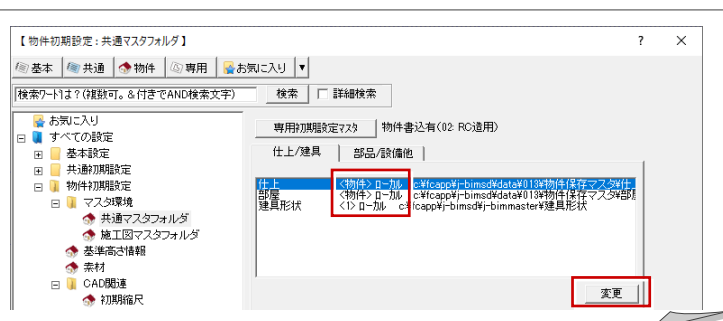
処理が完了すると、一覧に取り込まれた物件データが登録されます。



指定したファイルに、マスタのデータが保存されていない場合は、ここで処理が完了します。

共通マスタなどが保存されている場合は

共通マスタが保存されている物件データをインポートすると、「物件初期設定：マスタ環境－共通マスタフォルダ」に物件保存マスタ（物件フォルダ*物件保存マスタ）のフォルダが設定されます。
利用するマスタをシステムマスタに戻したい場合は、「変更」をクリックして切り替えます。



2 データの操作

ここでは、画面操作やデータの入力・編集などの基本操作について解説します。

2-1 画面の拡大・縮小

両ボタンドラッグによる画面操作

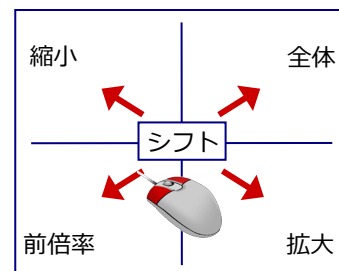
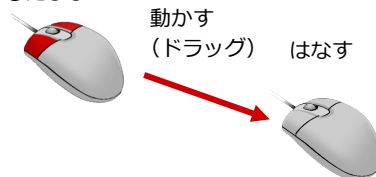
CAD 画面の拡大・縮小といった操作を素早く行えるように、Jw_cad と同じ「両ボタンドラッグ」を採用しています。

両ボタンドラッグとは、マウスの左右ボタンを同時に押したままマウスを移動する操作方法です。

※ 両ボタン操作が利かないときは、「設定」メニューの「基本設定」の「操作 1」にある「両ボタンドラッグによる拡大縮小」にチェックを付けます。

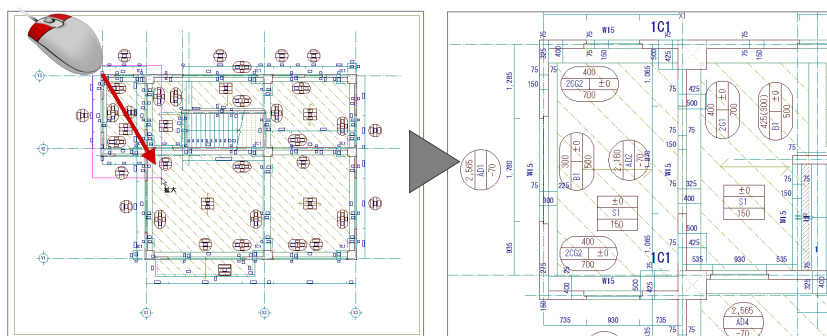
左右のボタンを
押したまま

動かす
(ドラッグ) はなす



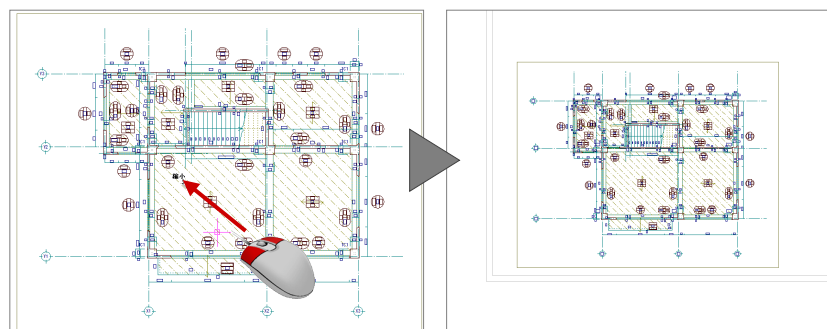
画面を拡大する

拡大したい範囲の左上でマウスの左右のボタンを同時に押し、右下方向へドラッグしてボタンをはなすと、指定した範囲が画面いっぱいに表示されます。



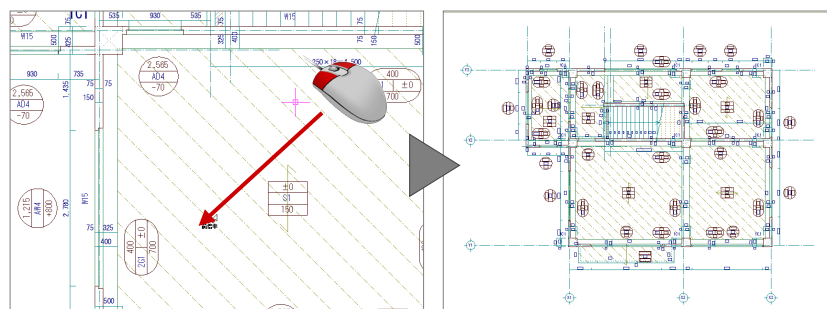
画面を縮小する

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左上方向へドラッグしてボタンをはなすと、画面の中心を基準に縮小されます。



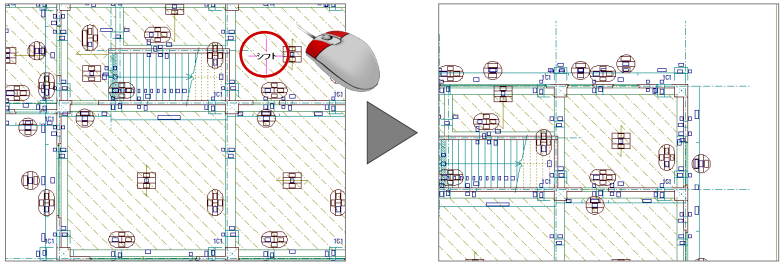
画面を前倍率に戻す

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左下方向へドラッグしてボタンをはなすと、1 つ前の表示範囲に戻ります。



画面を移動する（シフト）

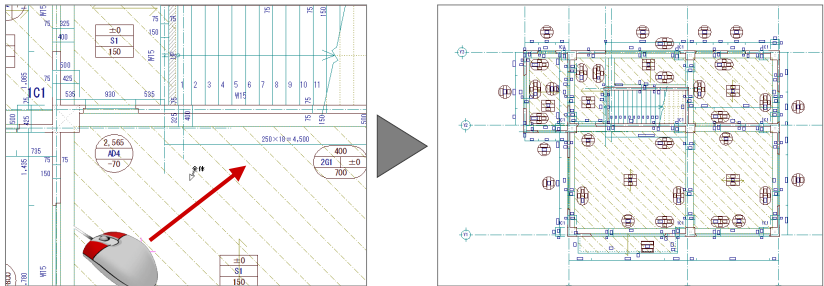
マウスの左右のボタンを同時に押し、動かさずにボタンをはなすと、その位置に画面の中心が移動します。



全体を表示する（作図範囲表示）

マウスの左右のボタンを同時に押し、右上方向へドラッグしてボタンをはなすと、全体図面などが画面いっぱいに表示されます。

※ 作図範囲とは作業エリア、出力範囲とする範囲を指し、作図範囲は自由に設定することができます。



その他の操作方法

両ボタンドラッグのほかにマウスホイールやキーボード、ポップアップメニューを使って画面を操作できます。

※1「設定」メニューの「基本設定」の「操作 1」にある「ホイール操作」のチェックを付け替えると、拡大・縮小が切り替わります。

※2「設定」メニューの「基本設定」の「操作 1」にある「キー操作」のチェックを付け替えると、拡大・縮小が切り替わります。

マウスホイールによる画面操作

拡大・縮小	ホイールを上下に動かすと、画面が拡大縮小されます。 ※1
表示移動	ホイールボタンを押したままマウスを動かすと、表示範囲が移動します。

キーボードによる画面操作

拡大・縮小	Page Up キーを押すと、画面の中心を基準に拡大されます。 Page Down キーを押すと、画面の中心を基準に縮小されます。※2
作図範囲表示	Home キーを押すと、作図範囲が画面いっぱいに表示されます。
表示移動	←・↑・→・↓キーを押すと、指定した方向に表示が移動します。

ポップアップメニューの機能による画面操作

拡大	 をクリックして範囲を指定すると、指定した範囲が拡大表示されます。
縮小	 をクリックすると、画面の中心を基準に縮小されます。
シフト	 をクリックして CAD 領域をクリックすると、指定した位置が画面の中心に移動します。
作図範囲表示	 をクリックすると、作図範囲が画面いっぱいに表示されます。

ズームビューを使って拡大表示するときは

入力位置を一時的に拡大表示したいときは、拡大したい位置にマウスカーソルを移動し、Z キーを押すとズームビューが表示されます。ズームビューを閉じるときは、 をクリック、または再度 Z キーを押します。

拡大する倍率は、 をクリックして選べます。

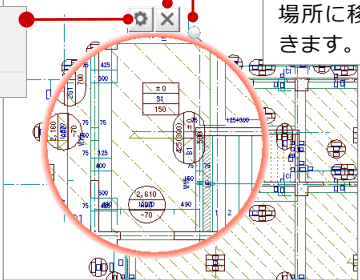
 を押したままズームビューをドラッグすると、拡大したい場所に移動できます。

ズームビューを閉じます。

ズームビューを拡大したい場所に移動できます。

- 倍率：4倍
- 倍率：8倍
- 倍率：16倍
- ☒ 両ボタンドラッグでのズームビュー表示を利用する

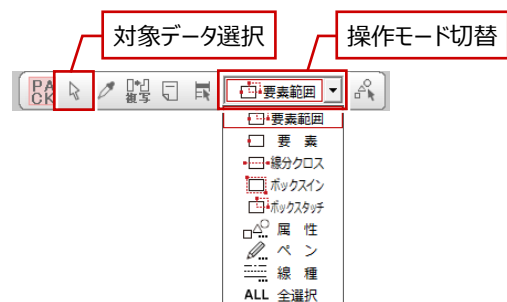
「両ボタンドラッグでのズームビュー表示を利用する」が ON の場合、両ボタンドラッグでマウスを真上に移動すると、マウスカーソルが  になり、そのままボタンをはなすとズームビューが表示されます



2-2 データの選択と編集

データの選択方法

データの選択方法は、ツールバーの「対象データ選択」をクリックして、「操作モード切替」で切り替えます。
また Tab キーで切り替えることもできます。



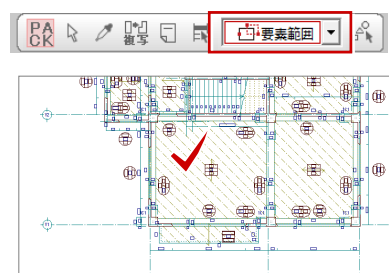
選択方法一覧

	要素範囲	要素とボックスタッチが 1 つになった選択方法です。データのそばでクリックすると、指定したデータが選択されます。データから離れた場所でクリックすると、指定した位置がボックスタッチの範囲の 1 点目になります。
	要素	1 クリックで指定したデータを選択します。
	線分クロス	指定した 2 点間のラインに触れているデータを選択します。
	ボックスイン	指定した矩形範囲に完全に含まれているデータを選択します。
	ボックスタッチ	指定した矩形範囲に触れている、または含まれているデータを選択します。
	属性別選択	データを属性単位で選択します。「属性別選択」ダイアログで目的の属性を指定します。ツールバーの と同じ機能です。
	ペン別選択	データをペン No 単位で選択します。「ペン別選択」ダイアログで目的のペン No を指定します。
	線種別選択	データを線種単位で選択します。「線種別選択」ダイアログで目的の線種を指定します。
	全て選択	図面上の全てのデータを選択します。

1 クリックで選択する

選択方法の「要素範囲」を使用すると、1 クリックで 1 つのデータを選択できます。

※ 選択状態を解除するには、ポップアップメニューの「キャンセル」、またはキーボードの Esc キーを押します。

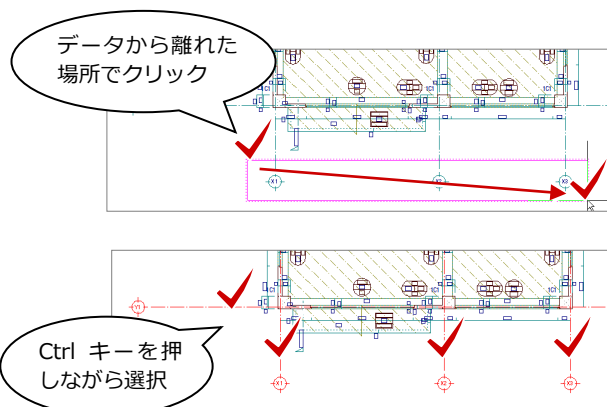


複数のデータを選択する

「要素範囲」はデータから離れた場所でクリックすると、範囲で複数のデータを選択できます。

※ 選択方法の「ボックスタッチ」も同じ機能です。

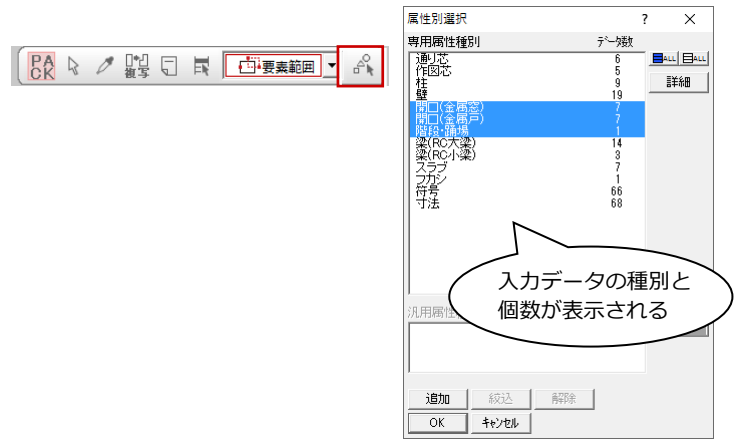
また、Ctrl キーを押しながら選択すると、選択データの追加・解除を行うことができます。



指定した属性のデータを選択する

ツールバーの「属性別選択」を使用すると、指定した属性のデータを選択できます。

※ 選択方法の「属性別選択」も同じ機能です。



パックモード

ツールバーには、「パック化選択切替」が用意されています。

通常、右図のようなデータを選択すると、表全体が1つのデータとして選択されます(図:A)。「パック化選択切替」をOFFにすると、文字列や線分を要素単位でデータを選択することができ、個別の編集が可能になります(図:B)。

例えば、表を入力した後で、表内の特定の文字列だけサイズを変えたいときや、外枠だけ線種を変えたいときなどは、「パック化選択切替」をOFFにしてデータを選択し、編集します。



【A:「パック化選択切替」がON】

【B:「パック化選択切替」がOFF】

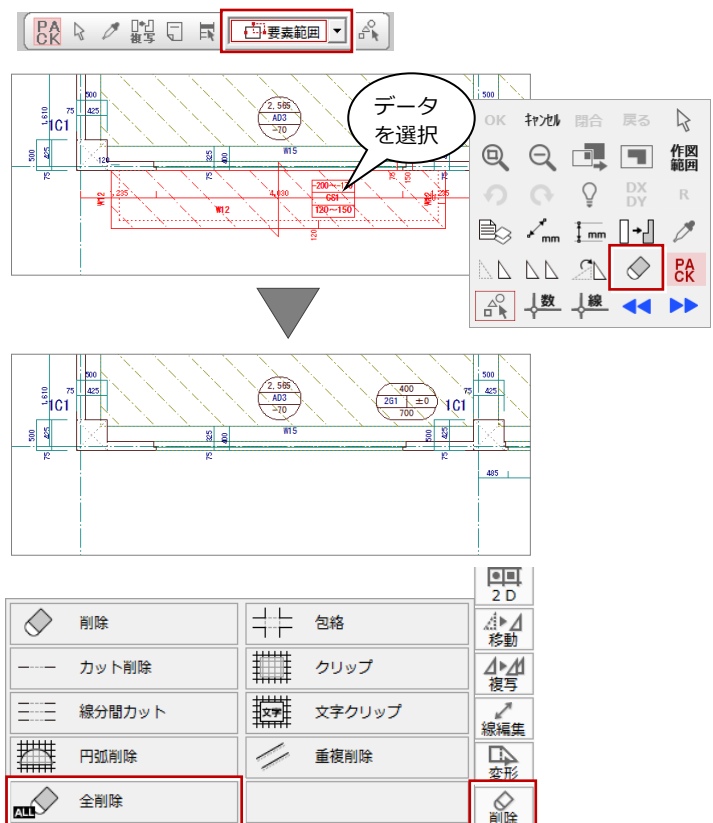
データの削除

データを削除するには、データを選択して、ポップアップメニューの「削除」をクリックします。または、キーボードの Delete キーを押します。

※ 削除したデータを元に戻したいときは、ツールバーの「元に戻す」を選択します。
⇒ P.21「元に戻す・やり直し」参照

※ 指定した種類のデータだけを削除したいときは、「属性別選択」でデータを選択し、削除します。

※ 図面の全データを削除したいときは、汎用ツールバーの「削除」メニューの「全削除」を使用します。



トラッカー

データを選択すると、トラッカー（□・△・○）が表示されます。このトラッカーを移動することで、領域を変形したり、移動することができます。ここでは、スラブ、通り芯、開口のトラッカーによる編集を紹介します。

トラッカーが表示されない場合

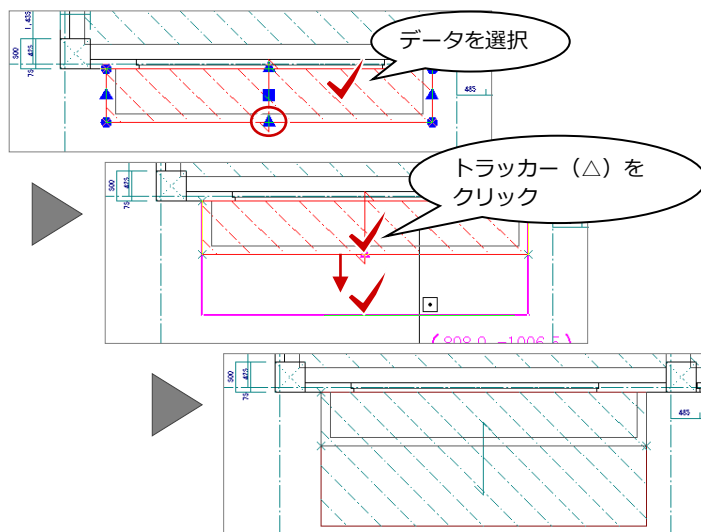
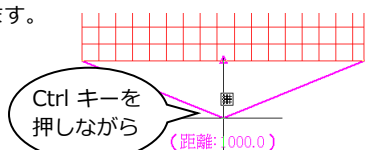
「設定」メニューの「選択モード」の「トラッカ選択切替」コマンドにチェックマークが付いているかどうかを確認してください。

領域を変形する

スラブなど領域のデータは、トラッカー（△）をクリックして、トラッカーの移動先を指定すると、領域を変更できます。

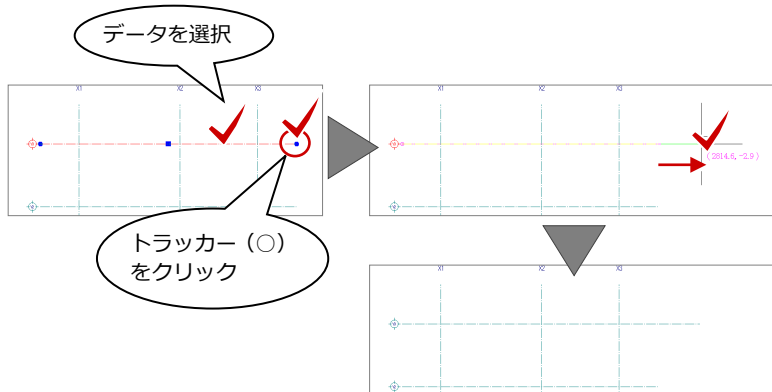
Ctrl キーで多角形に変形

トラッカー（△）をクリックして、Ctrl キーを押しながらトラッカーの移動先を指定すると多角形に変形できます。



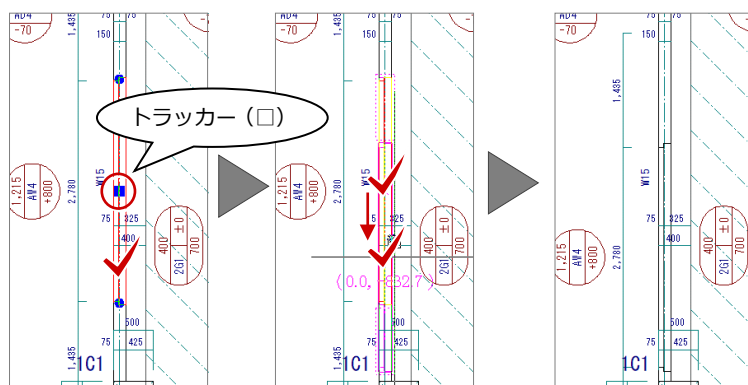
伸縮する

通り芯や壁など線分のデータは、トラッカー（○）をクリックして、トラッカーの移動先を指定すると、指定した位置までデータを伸縮できます。



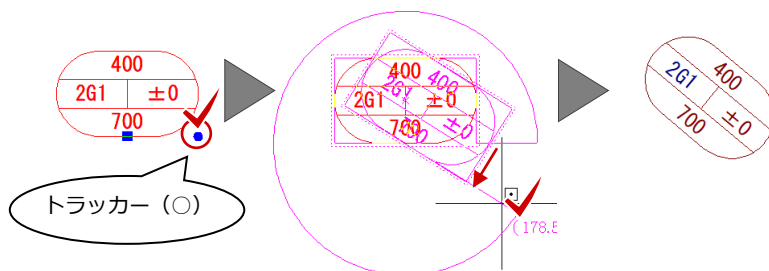
移動する

通り芯や開口など線分のデータは、トラッカー（□）をクリックして、トラッカーの移動先を指定すると、指定した位置までデータを移動できます。



回転する

記号や柱などのデータは、トラッカー（○）をクリックして、回転する方向を指定すると、データを回転できます。

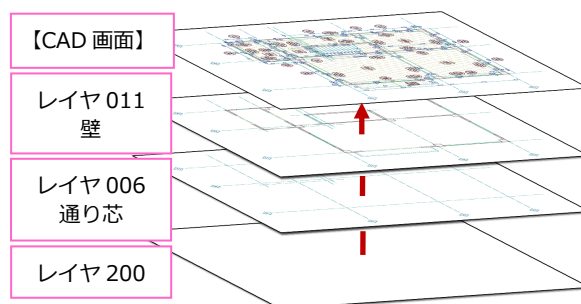


レイヤ

壁、通り芯、汎用などのデータは、レイヤを意識せずに入力していくことができますが、レイヤを知っていると、便利な使い方もできます。ここでは、レイヤの概念と便利な使い方を紹介します。

レイヤとは

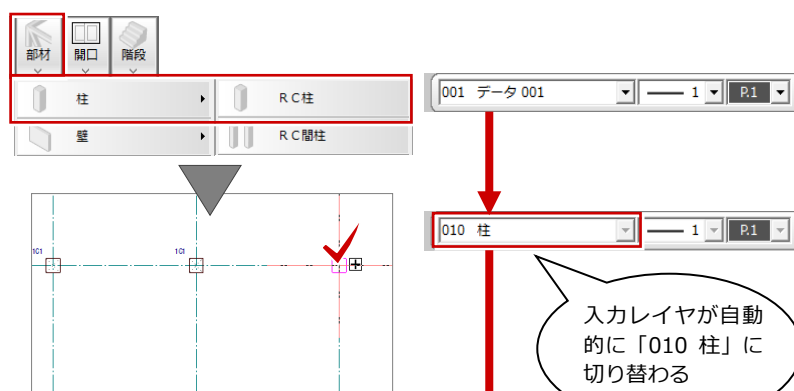
レイヤとは「層」を意味し、透明フィルムのようなもので、そのフィルム（レイヤ）ごとにデータが描写されています。その何枚ものフィルムを積み重ねて、CAD 画面にデータが表示されます。



柱、壁などのレイヤを確認する

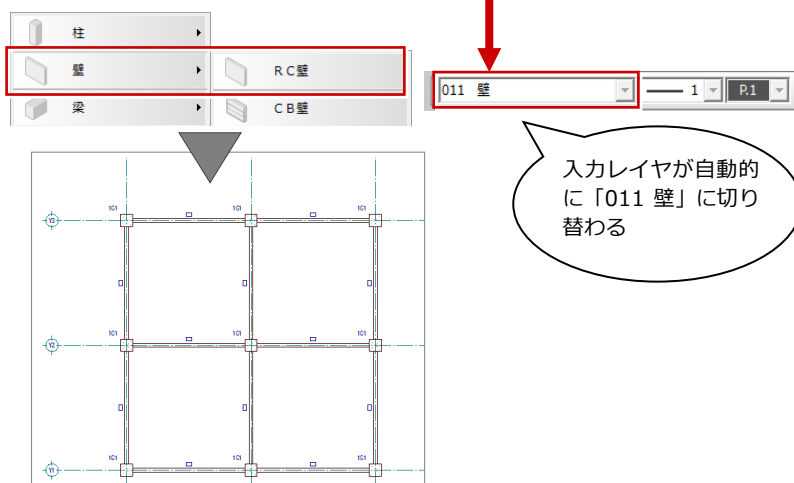
柱と壁を入力して、これらのデータがどのレイヤに入るかを確認してみましょう。

まず、「部材配置」メニューから「RC 柱」を選び、柱を入力します。



次に、「部材配置」メニューから「RC 壁」を選び、壁を入力します。

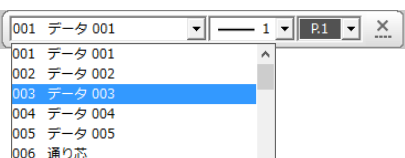
※ 柱や壁などの専用データ（汎用以外のデータ）は、自動的に入力レイヤが切り替わるため、特に意識する必要はありません。



汎用データのレイヤ

汎用データの入力する場合は、「データ 001」～「データ 005」などのレイヤを使用します。

また、補助点や補助線といった補助データは、専用の「000 補助点線」に入ります。



レイヤ表示の便利な使い方

柱を移動しようとする時、壁や梁、スラブなども選択されてしまうことがあるため、図面のレイヤ表示はそのままにした状態で、柱だけを選択したいときは、次のように設定します。

①「レイヤ表示・検索設定」をクリックします。

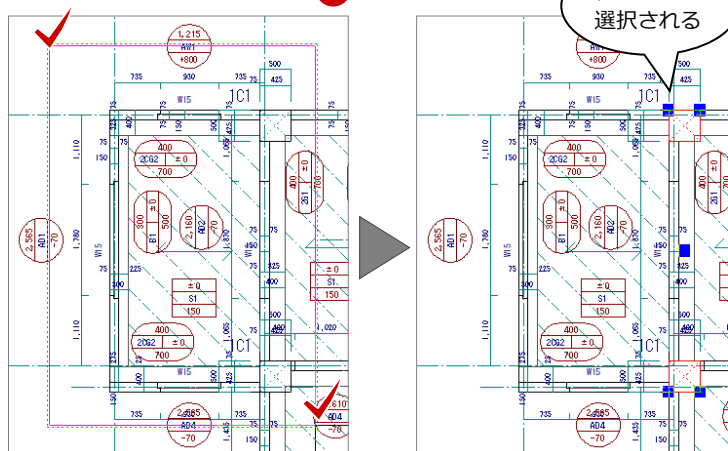
②「検索」をすべて OFF にする「ALL」をクリックします。

③「010 柱」の「検索」だけを ON にします。

※ 右図は、「基本設定：操作 3」にある「レイヤ表示・検索設定」が「モードレス」の場合の画面です。
⇒「モーダル」の場合はヘルプを参照



設定後、右図のように範囲指定でデータを選択すると、範囲内に入力されている柱だけが選択されます。



コマンドコレクション

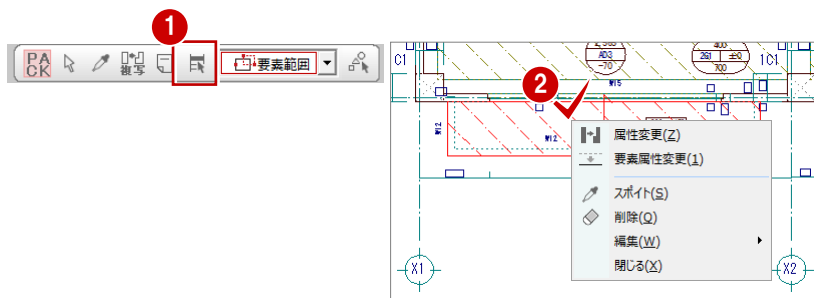
コマンドコレクションを使用すると、対象データに関連するコマンドを、メニューから簡単に選択することができます。

①「コマンドコレクション」をクリックします。

② 対象データをクリックします。

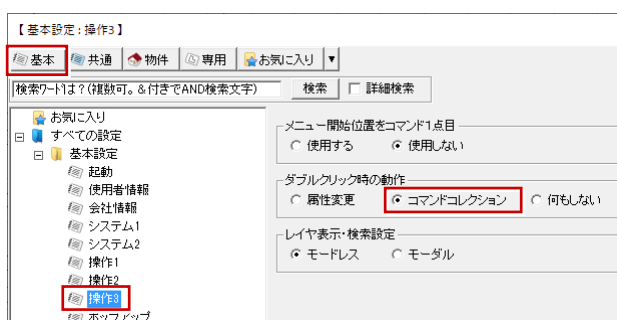
選択したデータに関連するコマンドコレクションメニューが表示されます。

右図は、バルコニーを選んだ場合のもので
す。



ダブルクリックでコマンドコレクションを表示する

「基本設定：操作 3」にある「ダブルクリック時の動作」を「コマンドコレクション」に設定すると、対象データをダブルクリックしてコマンドコレクションメニューを表示することができます。



2-3 データの入力

データの入力方法

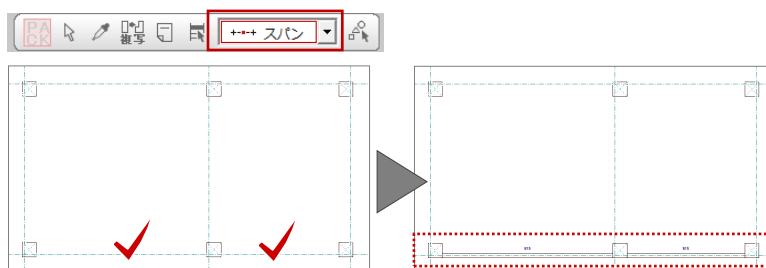
データの入力方法は、部材などの入力コマンドを実行後、ツールバーの「操作モード切替」をクリックして、リストから選びます。また、Tabキーで切り替えることもできます。

※ 入力方法はデータの種別によって異なります。



部材間、通り芯間に入力する

入力方法の「スパン」を使用すると、通り芯（または作図芯）を指定して、通り芯（作図芯）間または部材間に部材を入力できます。

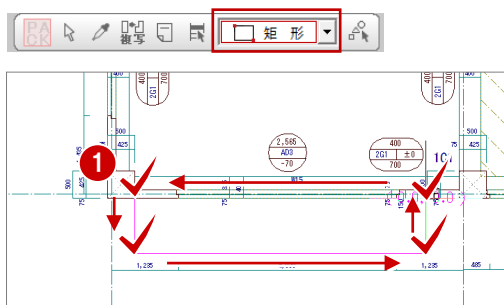


多角形領域を入力する

入力方法の「矩形」は、始点と対角点を指定して矩形の領域を入力しますが、多角形の領域を指定することもできます。

始点を指定し、1点目と水平もしくは垂直の位置に2点目をとると、多角円形入力になります。

最後に開始点（1点目）と同じ位置をクリックします。

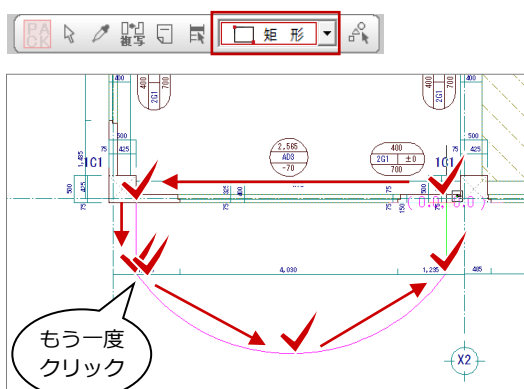


円弧のある多角形領域を入力する

上記「多角形領域を入力する」と同様、入力方法の「矩形」を使用して、1点目と水平もしくは垂直の位置に2点目を取り、多角円形入力にします。

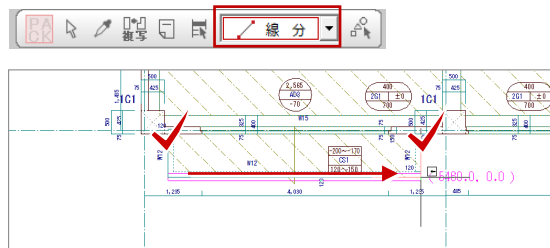
同じ位置をもう一度クリックすると、円弧の領域を指定できます。

※ 円弧の開始位置をクリックしたあと、Shiftキーを押しながら通過点をクリックしても円弧の入力が可能です。



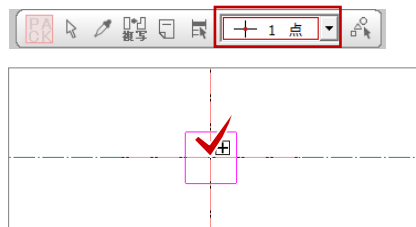
線分入力する

入力方法の「線分」を使用すると、部材の始点、終点を指定して入力できます。



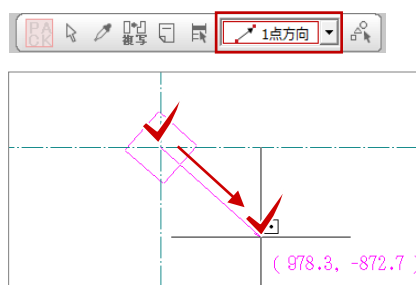
1 点入力する

入力方法の「1 点」を使用すると、部材の配置位置を 1 クリックで入力できます。



1 点+方向指定を入力する

入力方法の「1 点方向」を使用すると、部材の配置位置と方向を指定して入力できます。



その他の入力方法

入力方法	
 傾斜矩形	縦横の長さをクリックして、データを矩形（長方形）形状に指定する方法です。1 点目と 2 点目の方向で、配置角度を変えることができます。 例) パラペット、バルコニーなど
 円	中心点と半径を指定して、データを円形状に指定する方法です。 例) パラペット、バルコニーなど
 要素指定	線分などに囲まれてできる既存の領域にデータを入力する方法です。 例) 塗り潰し（汎用）など
 スパン	既存のデータ（部材）の線分に囲まれてできる領域に、データを入力する方法です。 例) 土間など
 円弧 3 点	円弧の始点、中間点、終点を指定して、データを円弧形状に入力する方法です。 例) 壁、梁など
 円弧出幅	円弧の始点と終点を指定してから円弧の出幅を指定して、データを円弧形状に入力する方法です。 例) 壁、梁など
 円弧角度	円弧の中心点位置と半径を指定してから、中心角を指定して、データを円弧形状に入力する方法です。 例) 壁、梁など
 連続	始点と終点を指定して、データを直線形状に連続して入力する方法です。終点位置が次のデータの始点位置になります。 例) 壁、連続基礎など
 円半径	円弧の中心点位置と半径を指定して、データを円弧形状に入力する方法です。 例) 真円（汎用）など
 円 3 点	円周上の 3 点を指定して、データを円形状に入力する方法です。 例) 真円（汎用）など
 要素指定	既存のデータ（円弧を含む）を指定して、データをその形状どおりに入力する方法です。 例) 平面詳細図の開口部など
 要素指定	既存のデータ（円弧のみ）を指定して、データをその形状どおりに入力する方法です。 例) 平面詳細図の建具の R-Fix など

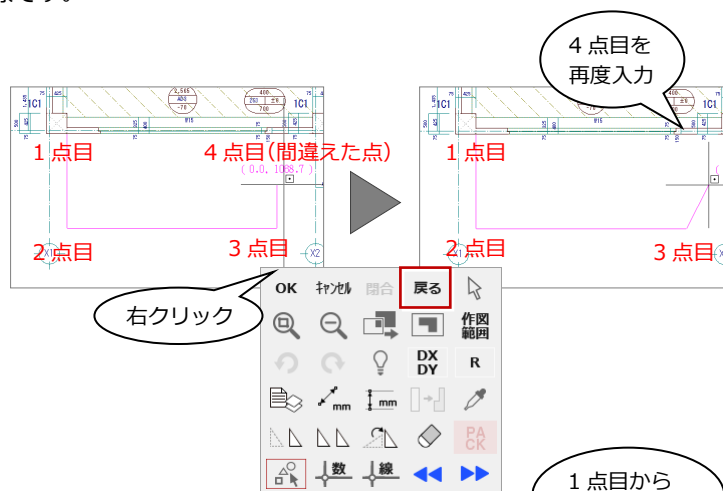
戻る・キャンセル

部材などデータの入力途中で入力点を間違えたときによく使用する操作を解説します。

この操作は、編集時に指定点などを間違えたときも同様です。

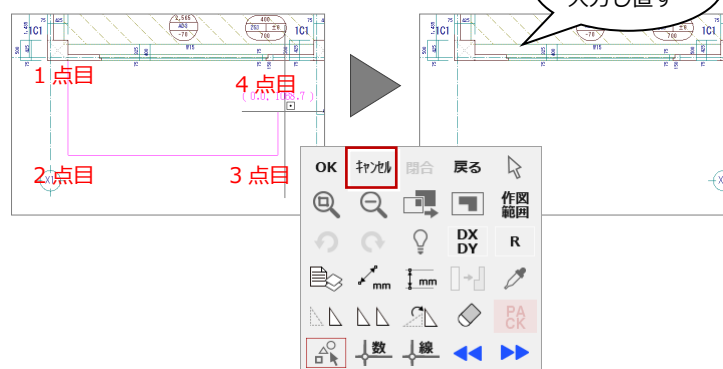
1つ前の入力段階に戻る

例えば、入力点を間違えた後に、ポップアップメニューの「戻る」をクリック、または Backspace キーを押すと、1つ前の入力に戻ります。



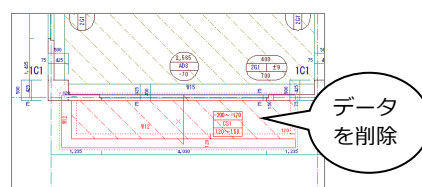
最初から入力をやり直す

例えば、入力点を間違えた後に、ポップアップメニューの「キャンセル」をクリック、または Esc キーを押すと、1点目からの入力になります。



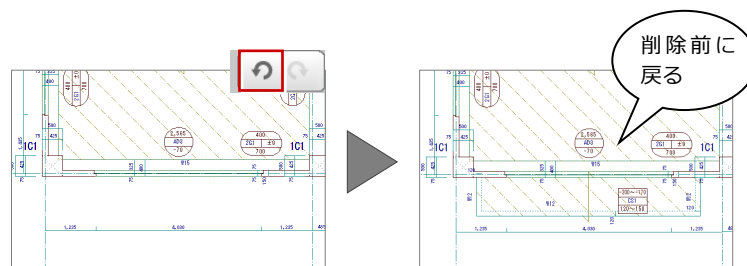
元に戻す・やり直し

データ削除などで編集した図面をもとの状態に戻す操作を解説します。



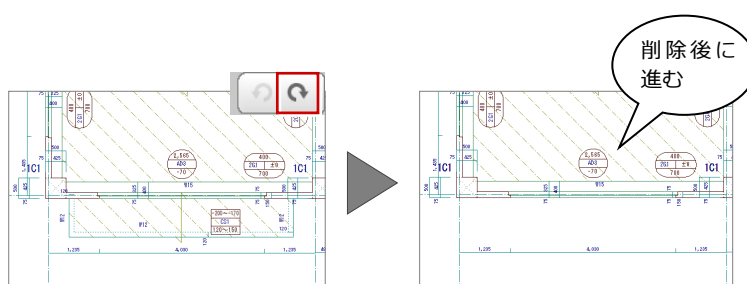
元に戻す

例えば、データを削除して、ツールバーの「元に戻す」をクリックすると、削除前の状態に戻ります。



やり直し

続けて、ツールバーの「やり直し」をクリックすると、削除後の状態になります。



- ※ 連続して 30 回までの操作を戻すことができます。
- ※ 作業中に別の図面を開いた場合は、操作の情報がクリアされ、そこまでの操作を元に戻したり、やり直したりできなくなりますので、注意してください。

2-4 ピックモード

ピックモードとは、図面上のデータ（図形からできる頂点、線分）や「グリッド」を利用して、マウスで正確な位置をつかむ（ピックする）機能をいいます。

ピックモードの切り替え

ピックモードは、入力コマンドを実行後、ツールバーのアイコンをクリックして、ON/OFFの状態を切り替えて使います。

下図に示すポイントをつかみたいときは、該当するピックモードに切り替えます。



【ON の状態】

【OFF の状態】

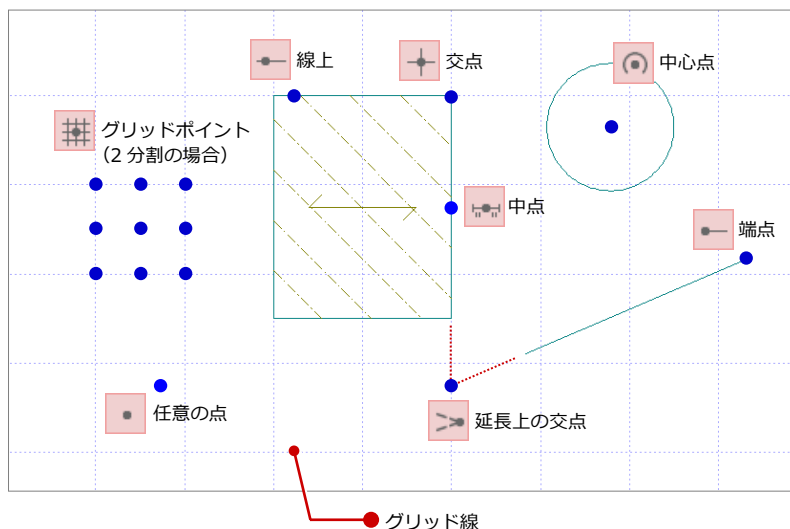
ピックモード一覧

	延長線	「延長線」と「交点」または「線上」の両方が ON のとき、線や円弧、または真円の延長上の交点をピックします。
	交点	線や円、円弧などの交点をピックします。
	端点	線や円弧の端の点をピックします。補助点もピックできます。
	グリッド	グリッドやグリッド分割点をピックします。
	フリー	CAD 領域上の任意の点をピックします。
	線上	線や円、円弧などの図形上の任意の点をピックします。
	中点	線や円、円弧などを 2 等分した中央の点をピックします。
	中心点	円や円弧の中心点をピックします。

グリッドとは

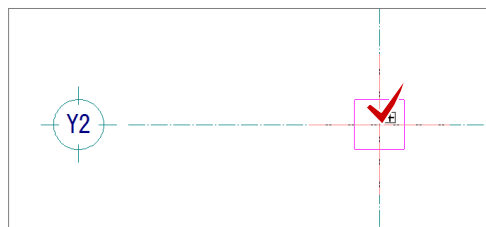
CAD 領域に表示されているマス目を「グリッド」といい、手書きで図面を描くときの方眼紙の役割をします。

※ グリッドの間隔は、「設定」メニューの「施工 物件初期設定」の「初期グリッド・用紙」コマンドの「間隔 X」「間隔 Y」で物件ごとに設定します。



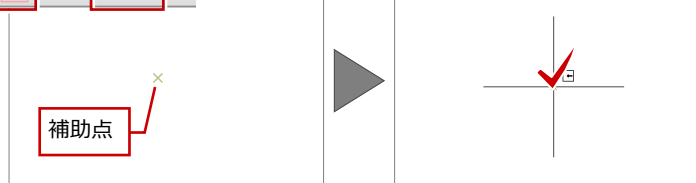
交点（角）をつかむ

「交点」を ON の状態にすると、線分や円などの交点を指定できます。



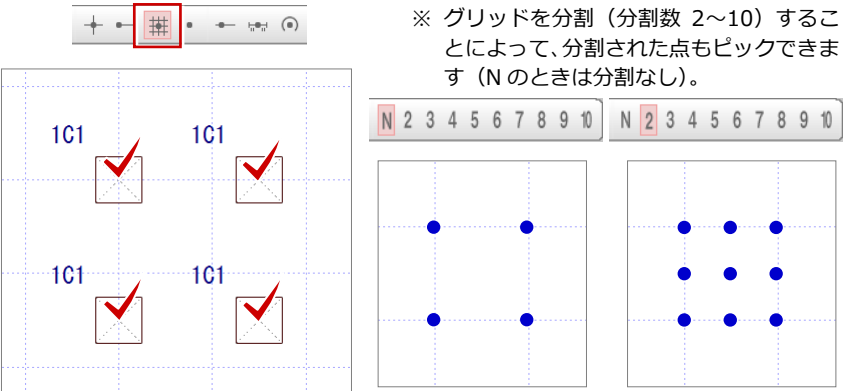
補助点をつかむ

汎用ツールバーの「補助点」メニューの「補助点入力」などで入力される補助点は、「端点」「線上」「中点」でつかめます。



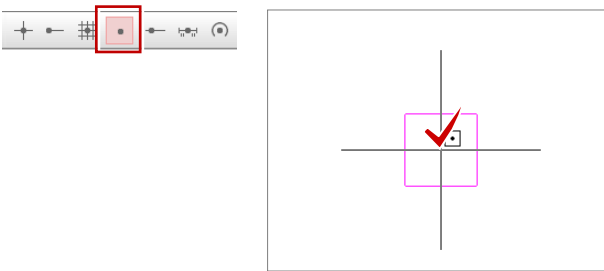
グリッドをつかむ

グリッドを ON の状態にすると、グリッド
(マス目の交点) を指定できます。



フリーで入力する (任意の点)

「フリー」を ON の状態にすると、任意の位置を指定できます。



ピック対象の切り替え

通常、CAD 画面に表示されているすべてのデータをピックすることができますが、ピック対象を切り替えることで、目的のデータを正確にピックすることができます。



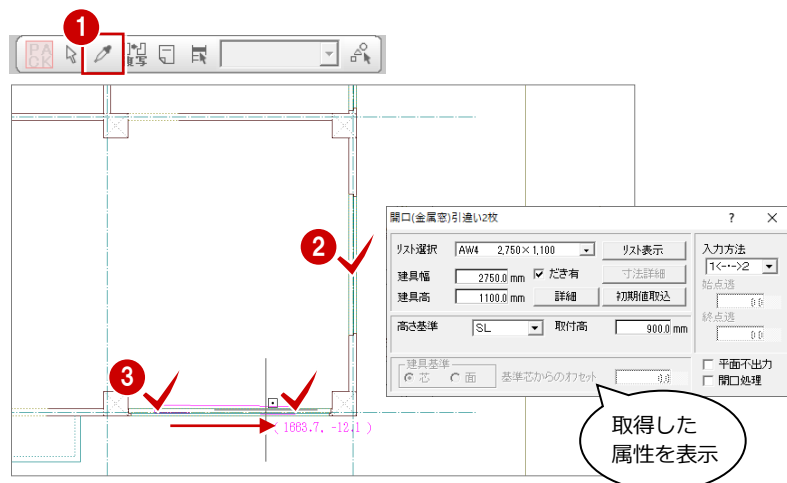
ピックの対象を切り替える機能	
ピック対象切替	
	ピック対象 (図形) ピック対象 (芯) ピック対象 (補助)
ピック対象 (図形)	図形 (すべてのデータ) をピックの対象に切り替えます。
ピック対象 (芯)	芯 (通り芯・作図芯) だけをピックの対象に切り替えます。
ピック対象 (補助)	補助 (補助点、補助線) だけをピックの対象に切り替えます。
ピック対象	BA CK
ピック対象 (バックレイヤ)	バック図面のデータをピックの対象にします。

2-5 便利な機能

スポイト

「スポイト」を使用すると、入力済みの部材から属性を取得して、同じ属性の部材を素早く入力することができます。

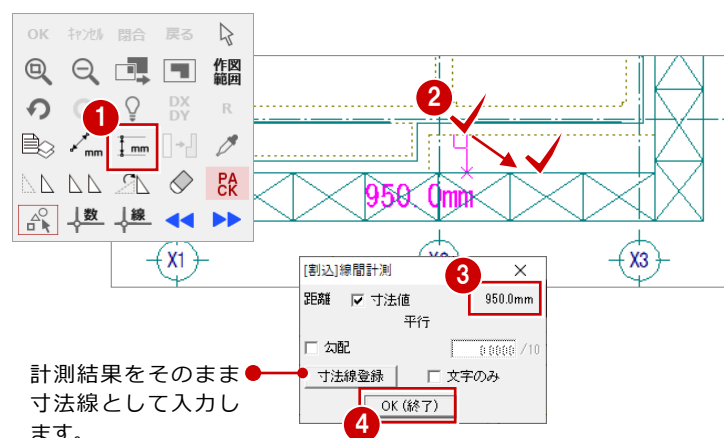
- ① 「スポイト」をクリックします。
- ② ここでは開口（金属窓）をクリックします。
- ③ 開口（金属窓）の始点と終点をクリックします。



線間計測

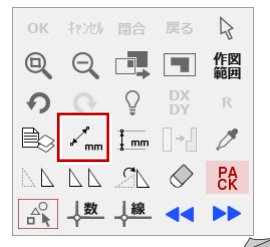
データの入力途中に、部材間の距離を計測したい場合は、ポップアップメニューの計測機能を利用します。

- ① 右クリックし、ポップアップメニューから「[割込] 線間計測」を選びます。
- ② ここでは、右図のように枠組足場のラインと補助線をクリックします。
- ③ 「[割込] 線間計測」ダイアログで距離を確認します。
- ④ 「OK（終了）」をクリックします。



点間計測

ポップアップメニューの「[割込] 点間計測」を使用して線間と同じように計測できます。点間計測では、2点間の距離、角度、水平距離、垂直距離を計測できます。



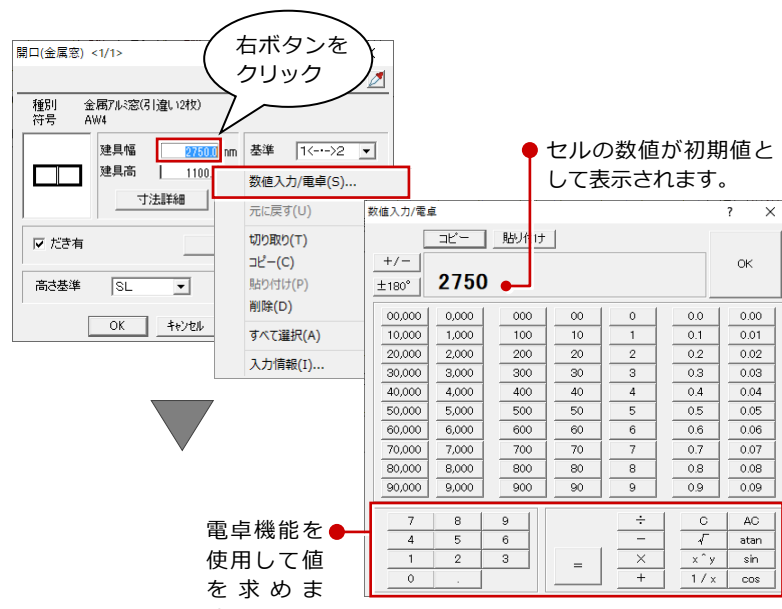
数値入力/電卓

ダイアログやセルなどの数値入力では、電卓機能を利用して計算結果を入力することができます。

例えば、「建具」ダイアログの「建具幅」を電卓機能で計算するには、入力欄で右クリックし、ポップアップメニューから「数値入力/電卓」を選択します。

「数値入力/電卓」ダイアログが開きますので、電卓機能を使用して値を求めます。

※ 入力欄でマウスホイールをクリックして、「数値入力/電卓」ダイアログを開くこともできます。



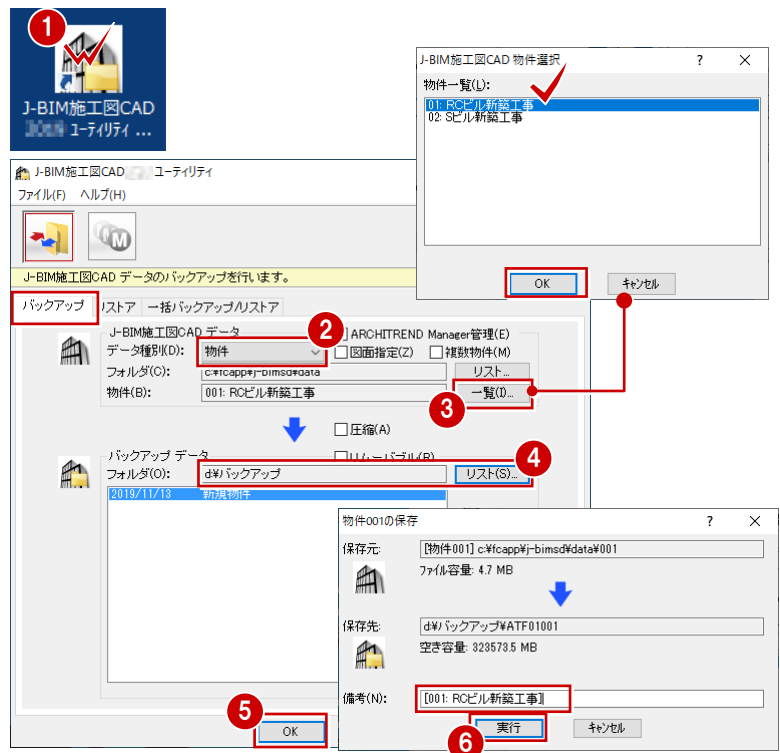
3 バックアップ・リストア

ハードディスクの故障や誤操作によるファイルの削除など、万が一に備えて、データやマスタは定期的にバックアップしておきましょう。

3-1 物件データのバックアップとリストア

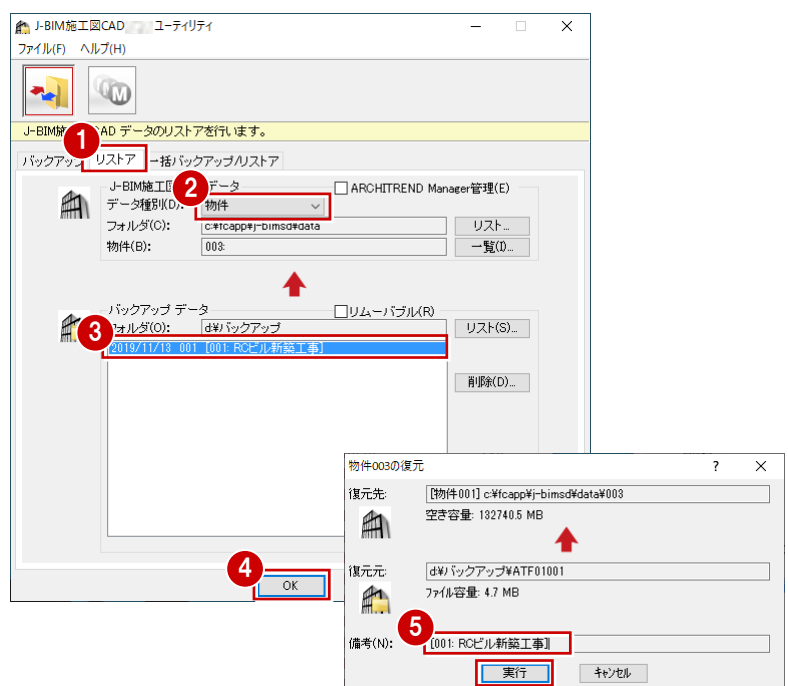
バックアップ

- 1 J-BIM 施工図 CAD ユーティリティを起動します。
- 2 「バックアップ」タブで、「データ種別」が「物件」であることを確認します。
- 3 「一覧」を選択して、バックアップする物件を選択します。
一度に複数の物件をバックアップする場合は、「複数物件」にチェックを付けて、「一覧」でバックアップしたい物件をすべて選択します。
- 4 「リスト」を選択して、バックアップ先のフォルダを設定します。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「備考」で物件名を確認し、「実行」をクリックします。



リストア

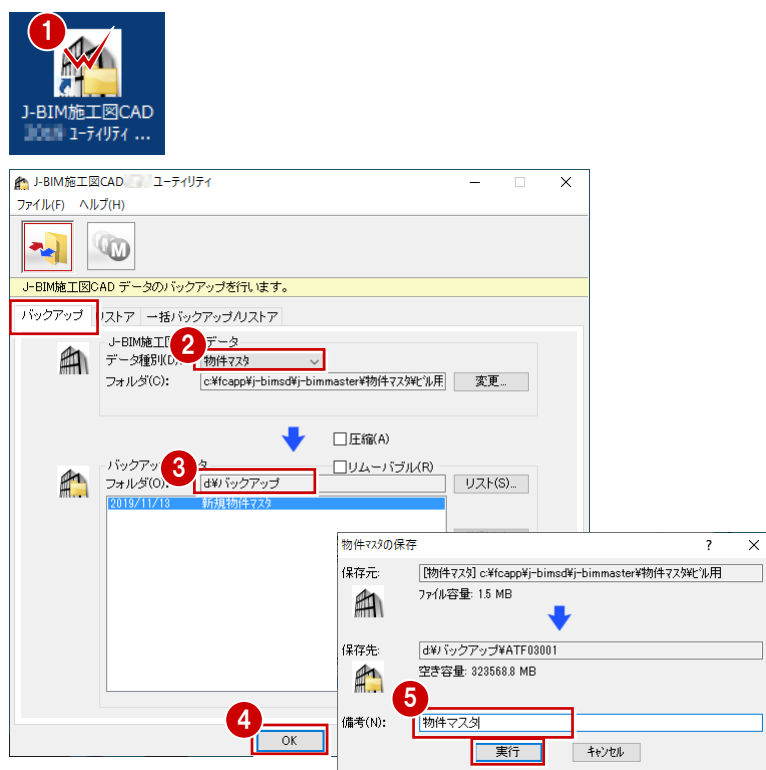
- 1 「リストア」タブを開きます。
- 2 「データの種別」が「物件」であることを確認します。
- 3 リストアしたい物件を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「備考」の内容を確認し、「実行」をクリックします。



3-2 マスタのバックアップとリストア

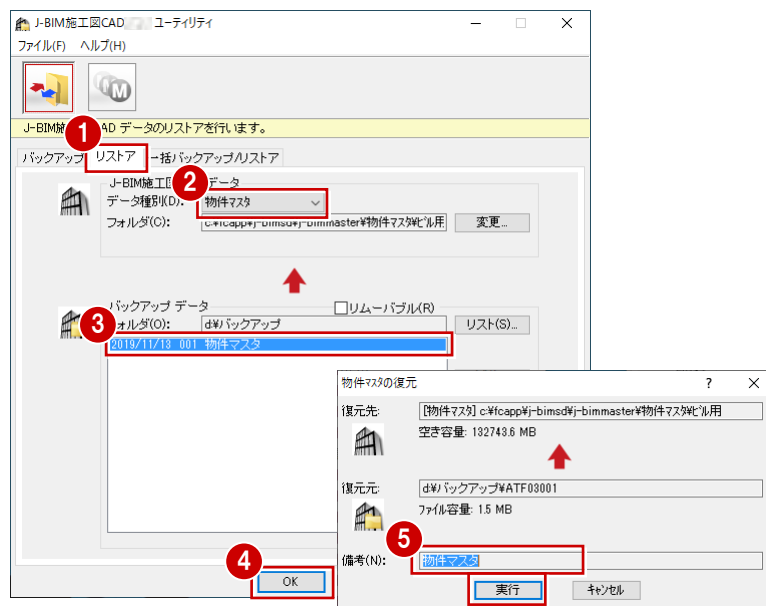
バックアップ

- 1 J-BIM 施工図 CAD ユーティリティを起動します。
- 2 「バックアップ」タブの「データ種別」をバックアップしたいマスタに変更します。
- 3 バックアップ先のフォルダを確認します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「備考」にマスタ名などを入力し、「実行」をクリックします。



リストア

- 1 「リストア」タブを開きます。
- 2 「データ種別」をリストアしたいマスタに変更します。
- 3 リストアしたいマスタを選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「備考」の内容を確認し、「実行」をクリックします。



一括バックアップ/リストア

マスタの一括バックアップ、リストアは、「一括バックアップ/リストア」タブをクリックして表示される画面で行うことができます。

※ 詳しい操作方法是、ユーティリティのヘルプを参照してください。